令和5年9月

令和５年　　７月　～　９月期　実　績
令和５年　　10月　～　12月期　見通し

# 中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

# 目　　次

主要景況項目の動き …… 2

業況天気図 …… 3

全産業の推移 …… 4

製造業の推移 …… 7

建設業の推移 …… 11

小売業の推移 …… 15

サービス業の推移 …… 19

全産業の過去データの推移 …… 23
＊平成15年1月以降

〔集計資料〕

## Ｄ・Ｉとは

Ｄ・Ｉとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

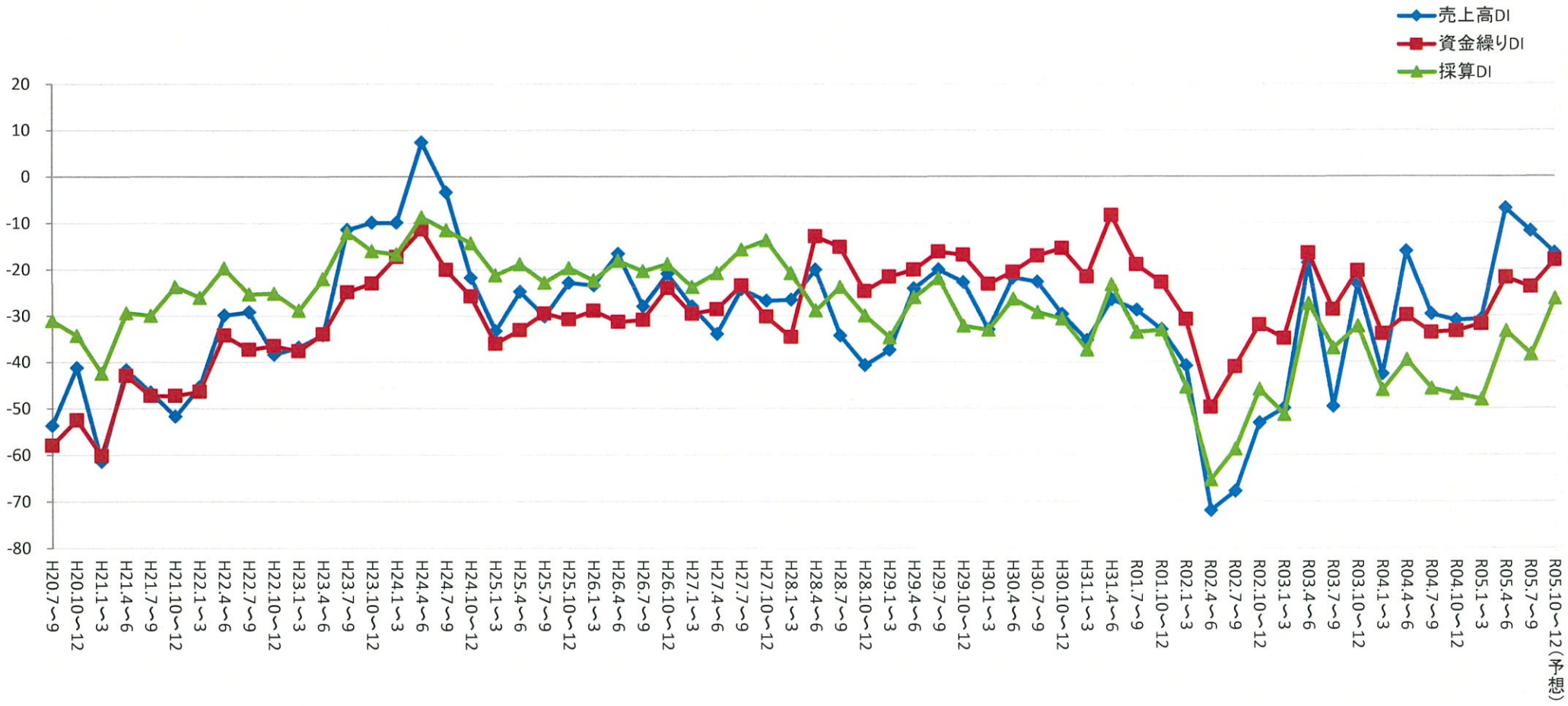
Ｄ・Ｉがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はＤ・Ｉはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50％、不変企業30％、減少企業20％の場合、Ｄ・Ｉは50 － 20 ＝ 30となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

［ 岩手県 産業全体 ］

## 主要景況項目の動き　－前年同期比－



# 業　況　天　気　図

| 期間 / 業種 | 令和3年 10～12月 | 令和4年 1～3月 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 令和5年 1～3月 | 4～6月 | （今期） 7～9月 | （見通し） 10～12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製造業 | 曇 | 雨 | 晴 | 薄曇 | 曇 | 曇 | 曇 | 雨 | 曇 |
| 建設業 | 曇 | 曇 | 薄曇 | 曇 | 雨 | 雨 | 曇 | 雨 | 雨 |
| 小売業 | 雨 | 雨 | 雨 | 雨 | 雨 | 曇 | 曇 | 薄曇 | 曇 |
| サービス業 | 曇 | 雨 | 雨 | 雨 | 雨 | 曇 | 晴 | 晴 | 薄曇 |

| 売上高DI | 100.0～30.1 | 30.0～10.1 | 10.0～△10.0 | △10.1～△30.0 | △30.1～△100.0 |
|---|---|---|---|---|---|
| 表示 | 快晴 | 晴 | 薄曇 | 曇 | 雨 |

# 全産業の推移

## 売　上　高

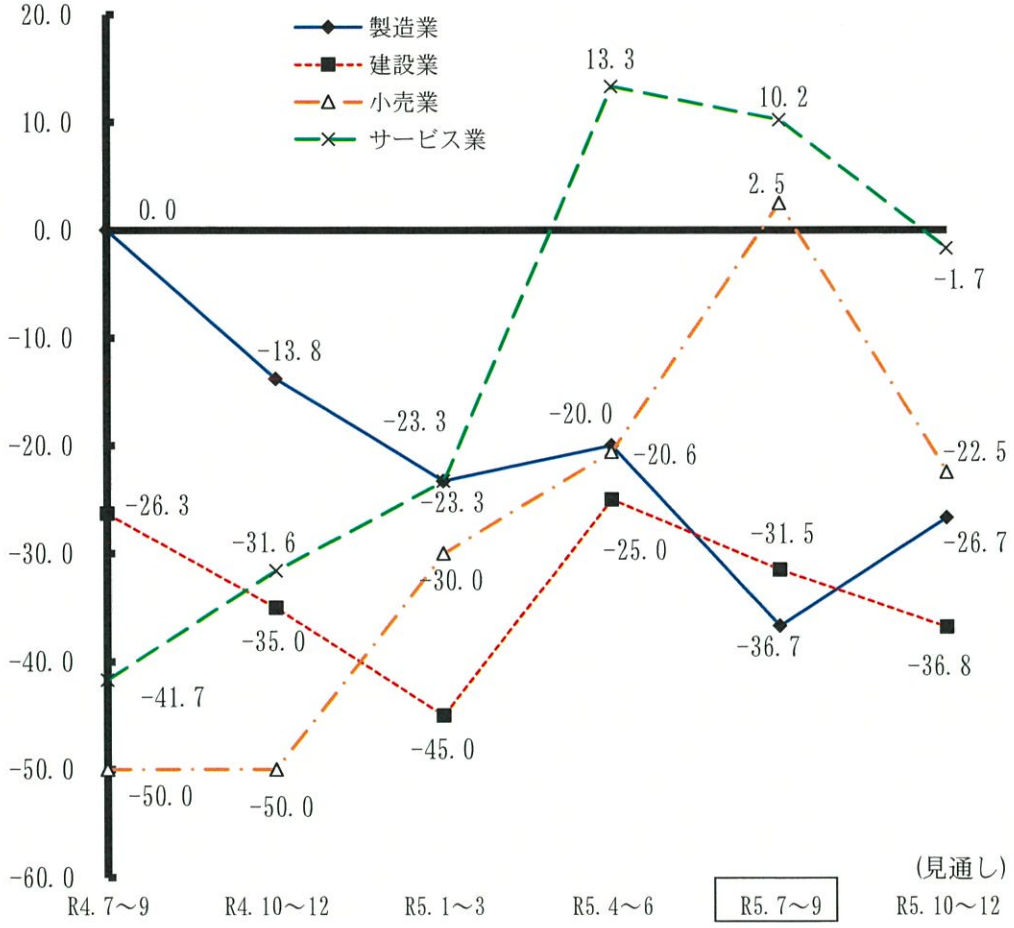
***小売業の売上高D･Iが3期連続の上昇***
***建設業、製造業は悪化に転じる***

今期の売上高Ｄ・Ｉは、小売業が３期連続の上昇となり、記録の残る平成１５年１月～３月期以来２０年ぶりにプラス域まで回復しました。サービス業は低下に転じたものの引き続きプラス域にとどまっています。他方、前期改善傾向がみられた建設業、製造業が悪化に転じています。

小売業は２３．１ポイントの大幅な上昇となり２．５まで改善、サービス業が３．１ポイント低下して１０．２、建設業と製造業が低下に転じ、建設業が６．５ポイント低下して△３１．５、製造業が１６．７ポイントの低下により△３６．７までそれぞれ悪化しています。

来期は、製造業において改善が見込まれるものの、サービス業、小売業は悪化に転じ、建設業においては２期連続の悪化となる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



# 採　　算

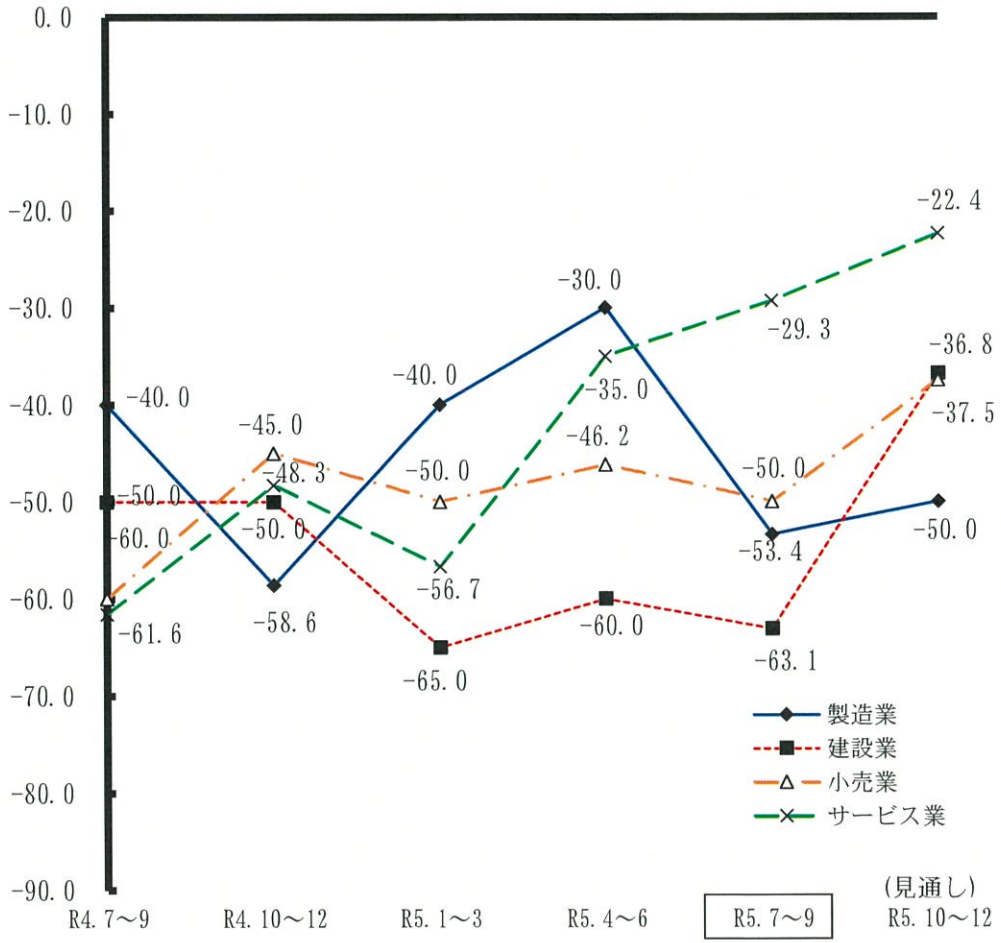
***サービス業が2期連続の改善***
***製造業、小売業、建設業が悪化***

今期の採算Ｄ・Ｉは、サービス業が２期連続の改善となりましたが、前期改善傾向にあった製造業、小売業、建設業は悪化に転じています。

サービス業は５．７ポイント増加して△２９．３まで改善、小売業は３．８ポイント低下の△５０．０、製造業は２３．４ポイントの大幅な低下により△５３．４まで悪化、建設業も３．１ポイント低下して△６３．１まで悪化し、低いレベルで推移しています。

来期は、２期連続して改善が見られたサービス業が引続き改善する見通しであり、小売業、製造業、建設業も改善に転じることが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



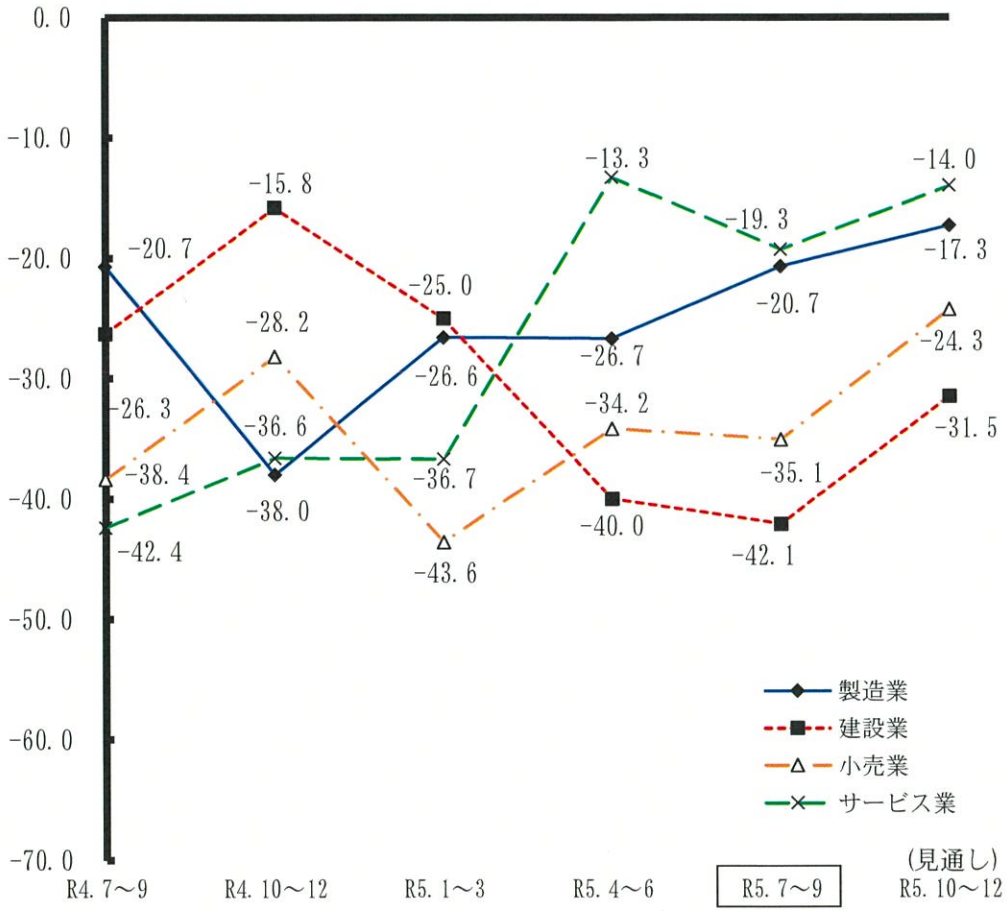
# 資 金 繰 り

***製造業は資金繰りが改善***
***サービス業、小売業、建設業が悪化***

今期は製造業において資金繰りＤ・Ｉが改善しましたが、前期改善傾向にあったサービス業、小売業が悪化に転じています。建設業は３期連続の悪化となっています。

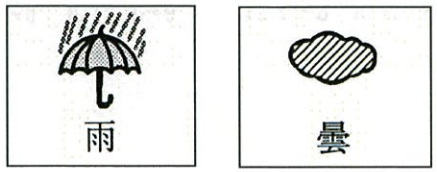
製造業は改善となり、６．０ポイント上昇して△２０．７、前期大幅に改善していたサービス業は悪化に転じ、６．０ポイント低下して△１９．３、小売業も僅かながら低下して△３５．１、建設業は３期連続の低下となり△４２．１まで悪化しています。

来期は、全業種において資金繰りＤ・Ｉが改善することが予想され、製造業は２期連続の改善となることが見込まれています。



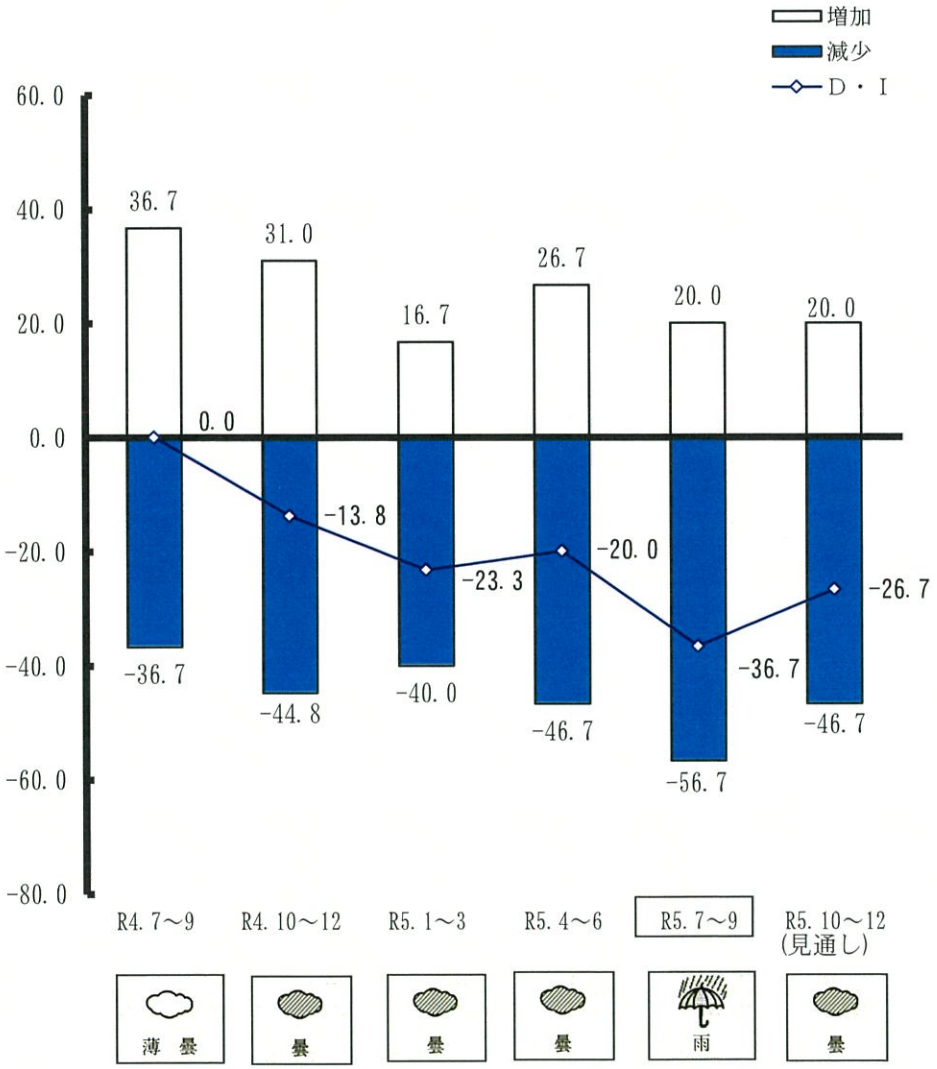
## 売　上　高

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞




今期は、売上高増加企業の割合が６．７ポイント減少し、売上高減少企業の割合が１０．０ポイント増加したことから、売上高Ｄ・Ｉは１６．７ポイントの低下となり△３６．７となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業割合が減少することから、売上高Ｄ・Ｉは上昇に転じ、景況天気図も雨から曇りへと変化する見通しです。

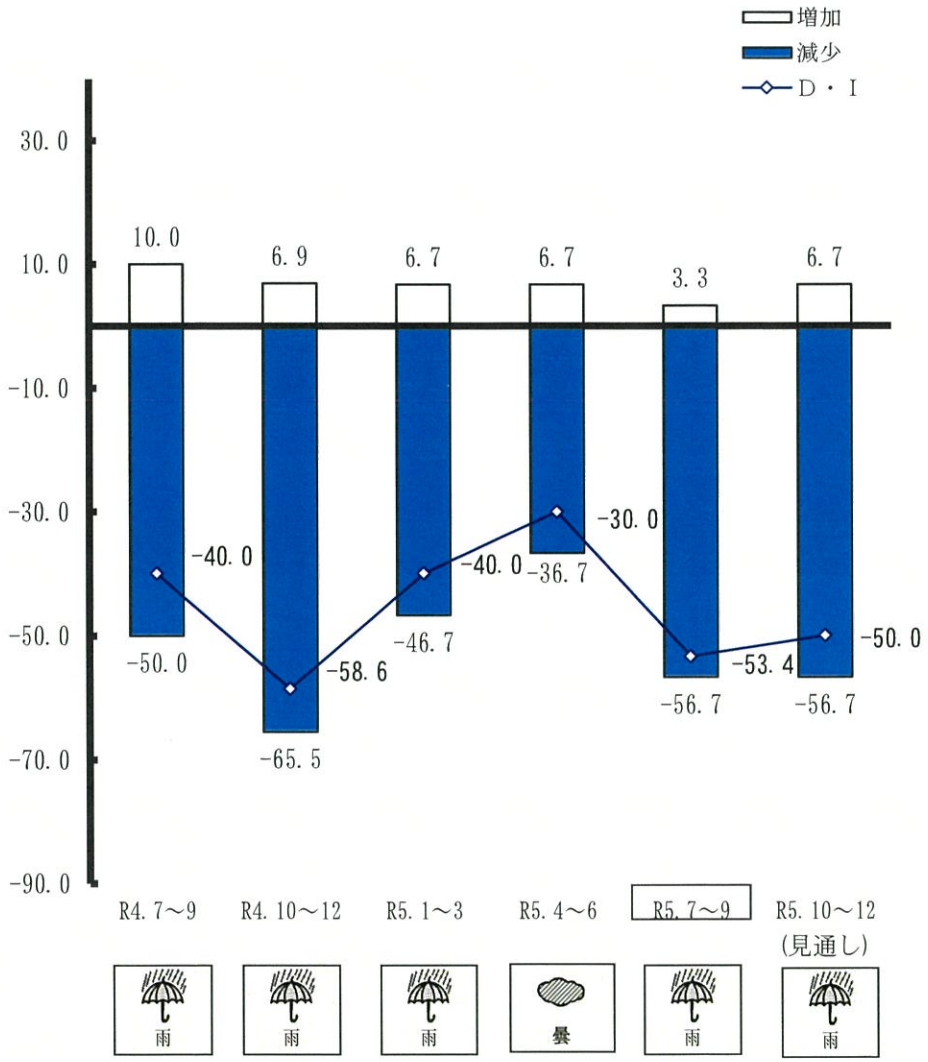


# 採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞

今期は、採算が改善した企業の割合は３．４ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が２０．０ポイントの大幅な増加となったことから、採算Ｄ・Ｉは２３．４ポイントの低下となり、△５３．４まで悪化しました。

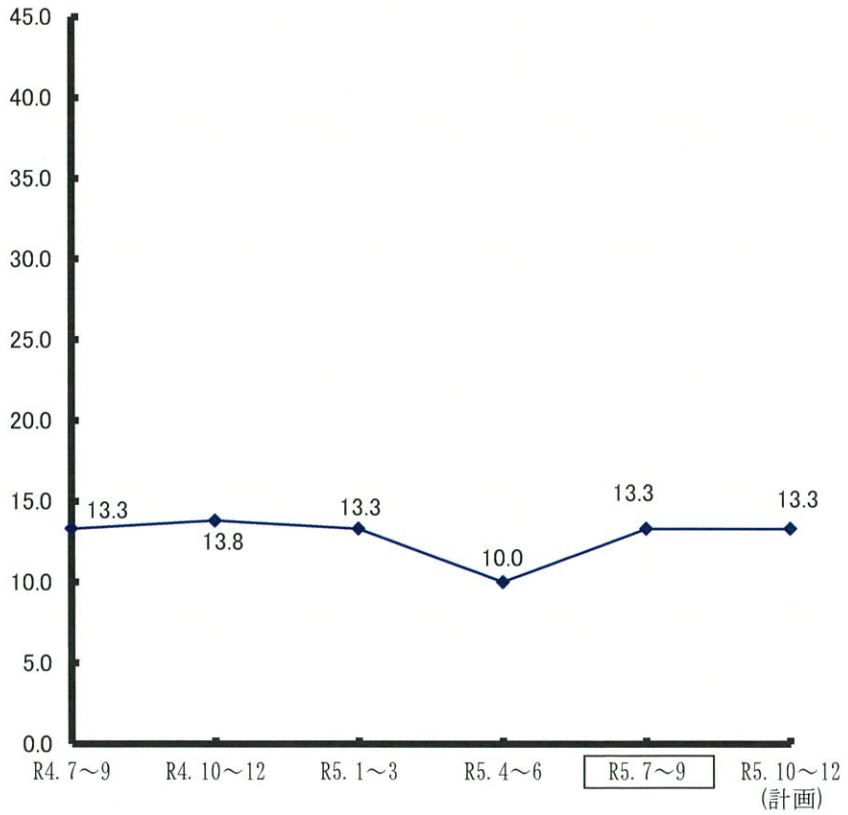
来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業が横ばいとなり、採算Ｄ・Ｉは、改善に転じるものの、依然として低いレベルにとどまることが予想されています。



# 設　備　投　資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は増加となり、１３．３となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルにとどまることが予想されています。

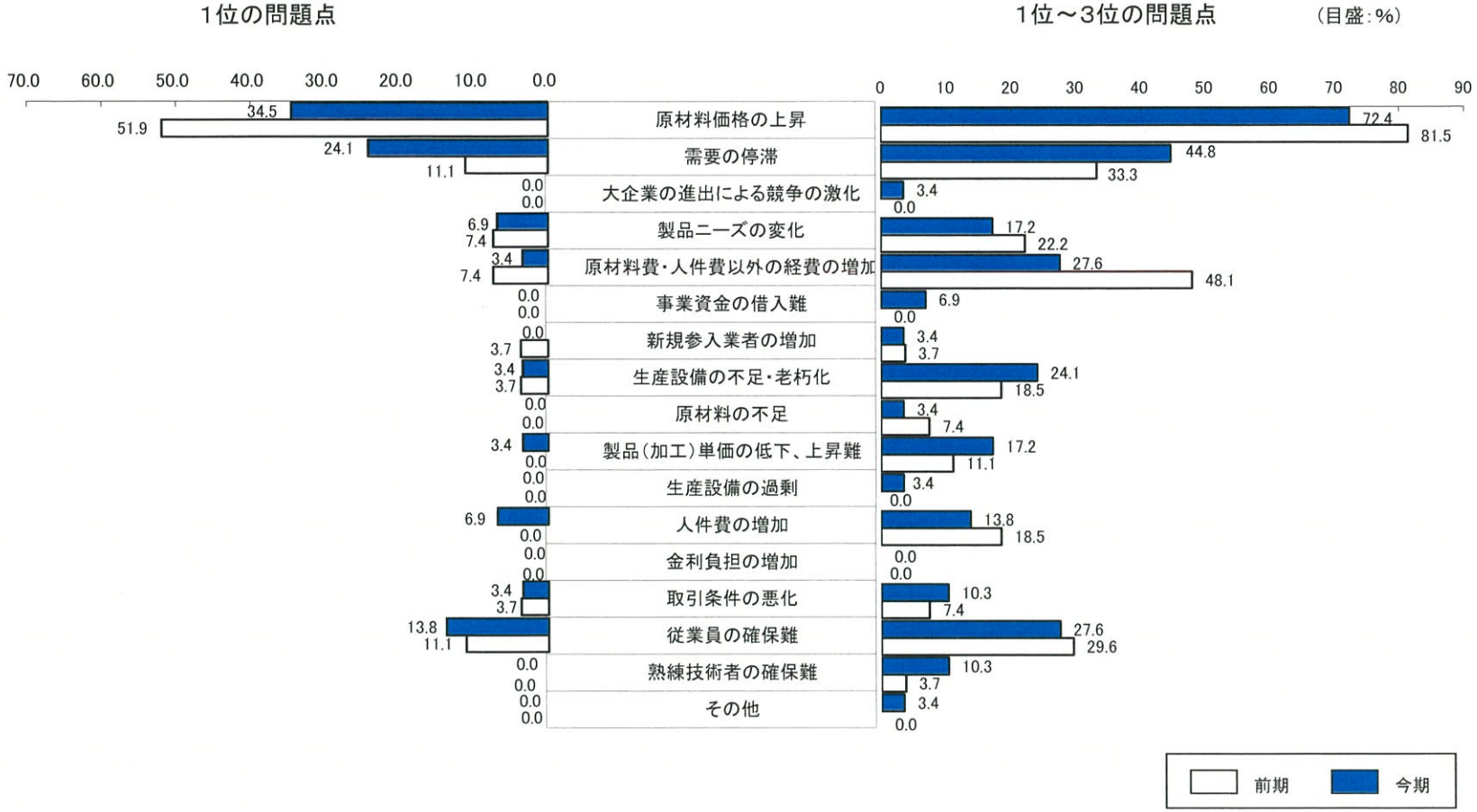



（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 経営上の問題点

## 岩手県　製造業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



## 売　上　高

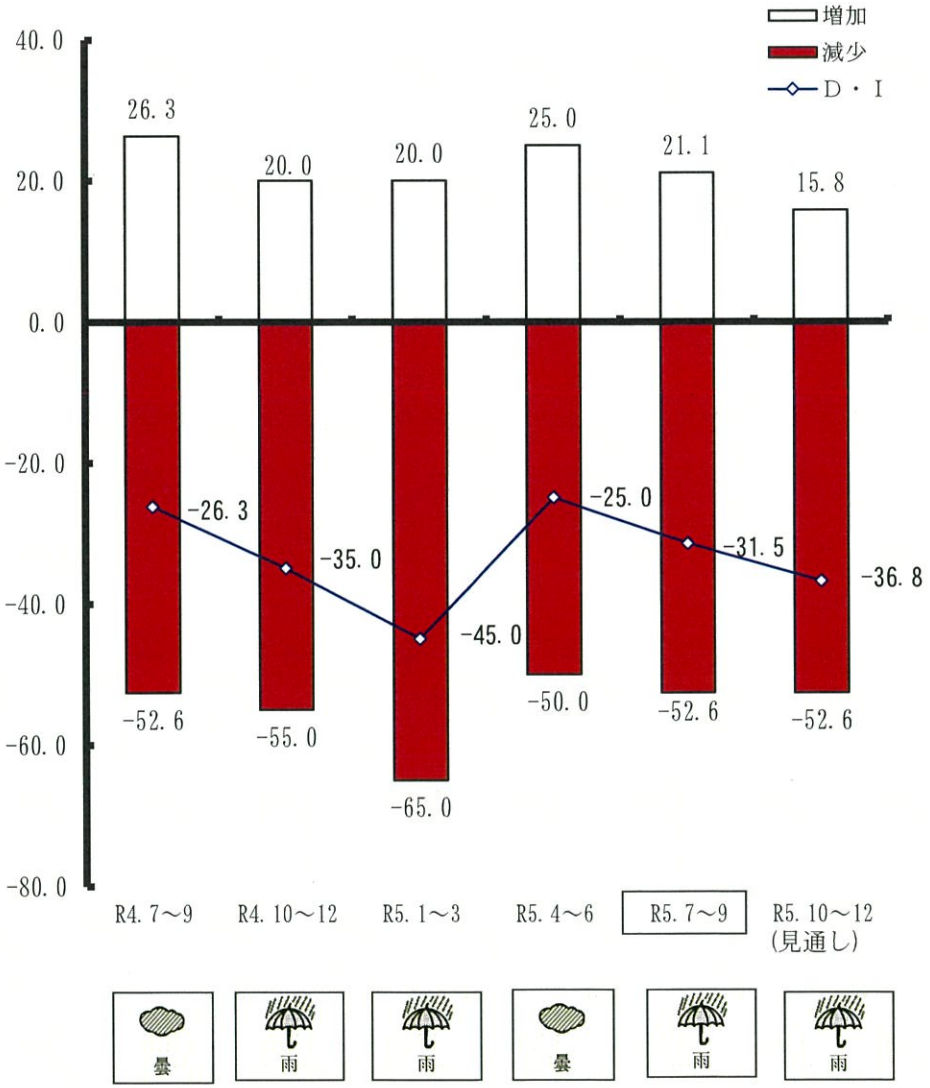
<今　　期>

<来期見通し>

前期改善傾向にあった建設業の売上高Ｄ・Ｉは、再び悪化に転じています。今期は、売上高が増加した企業割合が３．９ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が２．６ポイントの増加となったため、売上高　Ｄ・Ｉは低下に転じ、△３１．５まで悪化しています。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少となることが見込まれることから、売上高Ｄ・Ｉは２期連続して悪化することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高

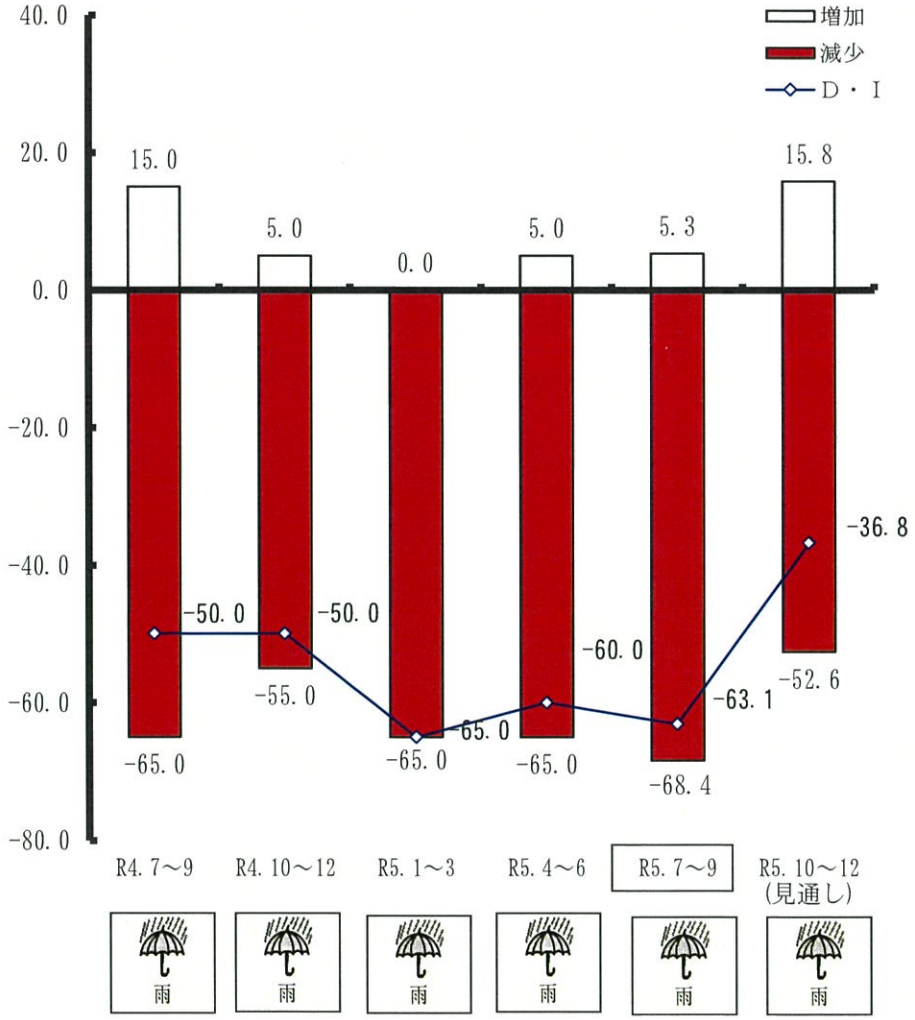


# 採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞

今期は、採算が改善した企業の割合が、ほぼ前期と横ばいにとどまり、採算の悪化を挙げた企業の割合が僅かながら増加したため、採算Ｄ・Ｉは３．１ポイントの低下し、依然として△６３．１の低いレベルで推移しています。

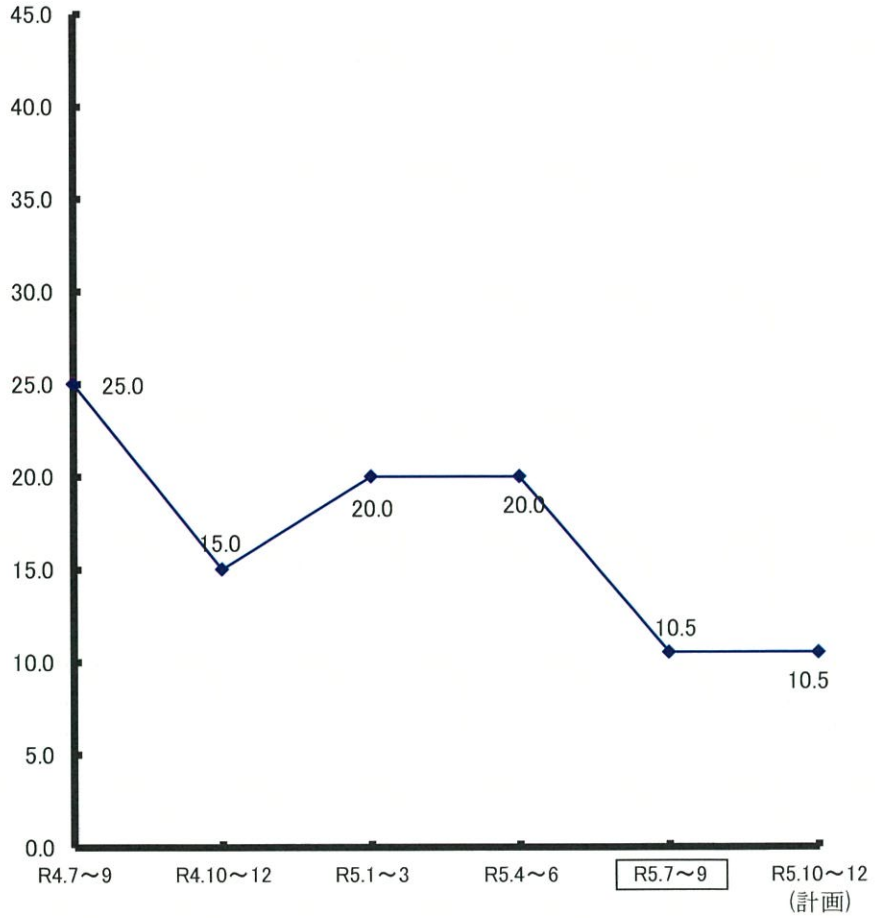
来期は、採算の改善を予想する企業が増加し、採算の悪化を予想する企業が大きく減少することから、採算Ｄ・Ｉは大幅に改善することが予想されています。



# 設　備　投　資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期より大幅に減少し、１０．５にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と横ばいにとどまり、今期と同レベルの１０．５程度となることが予想されます。

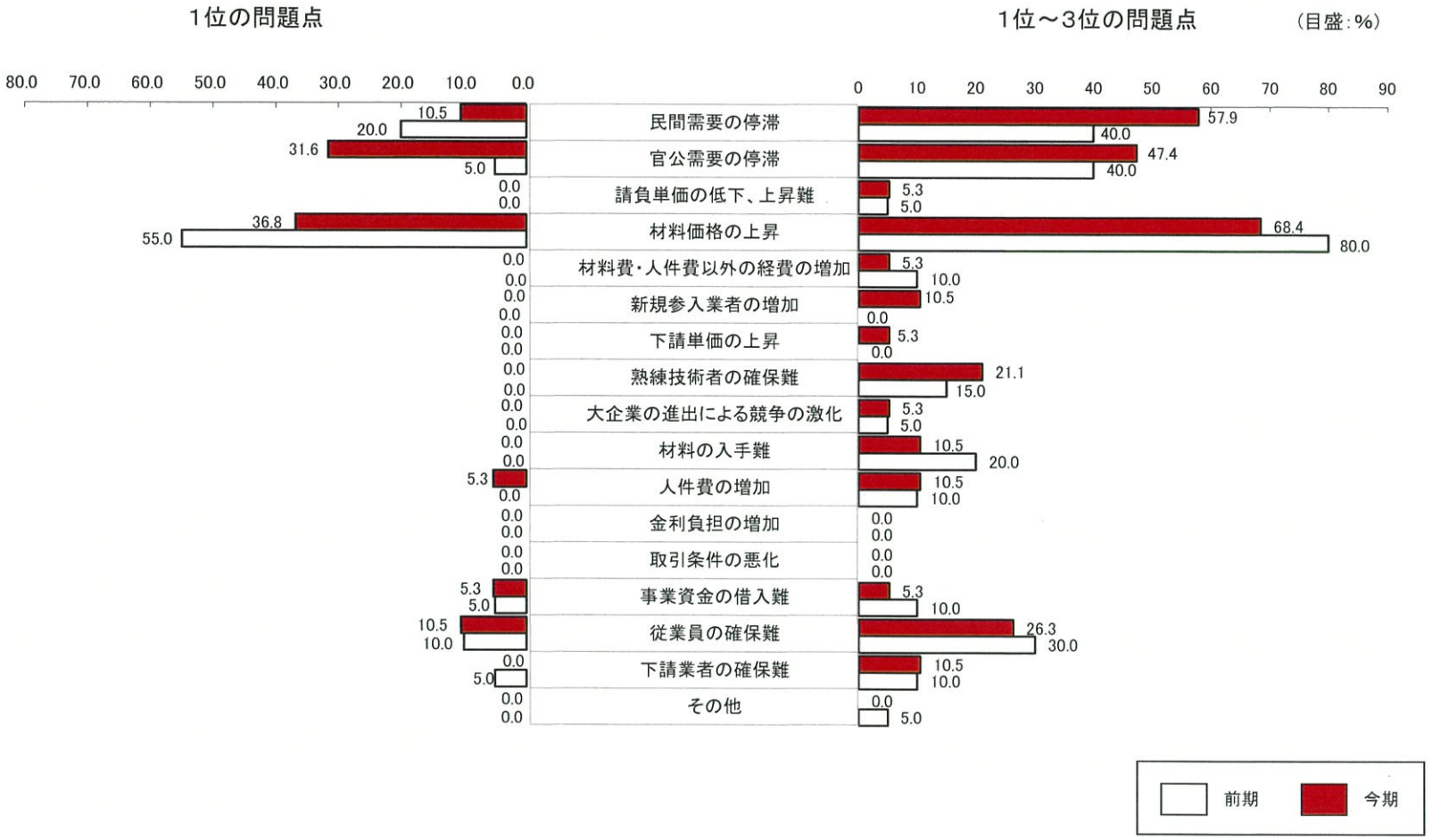



（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 経営上の問題点

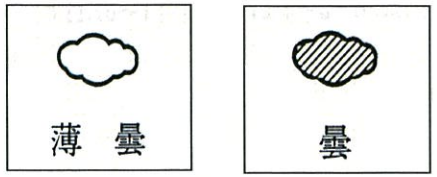
## 岩手県　建設業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



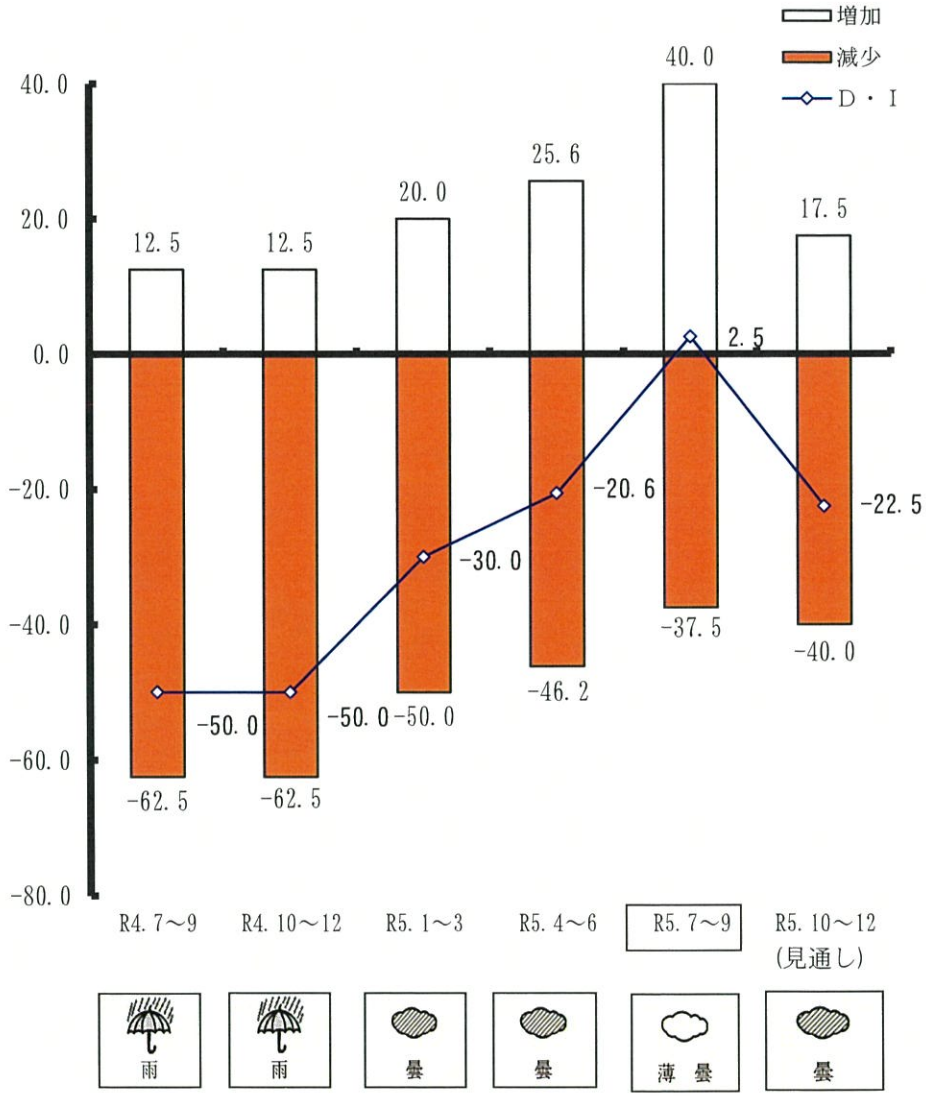
## 売　上　高

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞




今期は、売上高増加企業の割合が増加し、売上高減少企業の割合が減少したことにより、売上高Ｄ・Ｉは２３．１ポイントの大幅な増加となり、３期連続の増加により記録の残る平成１５年１月～３月期以来２０年ぶりにプラス域に達し、２．５まで回復しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少し、売上高減少を予想する企業割合が増加することが見込まれるため、売上高Ｄ・Ｉは再び悪化に転じ、景況天気図も薄曇りから曇りへと変化する見通しです。

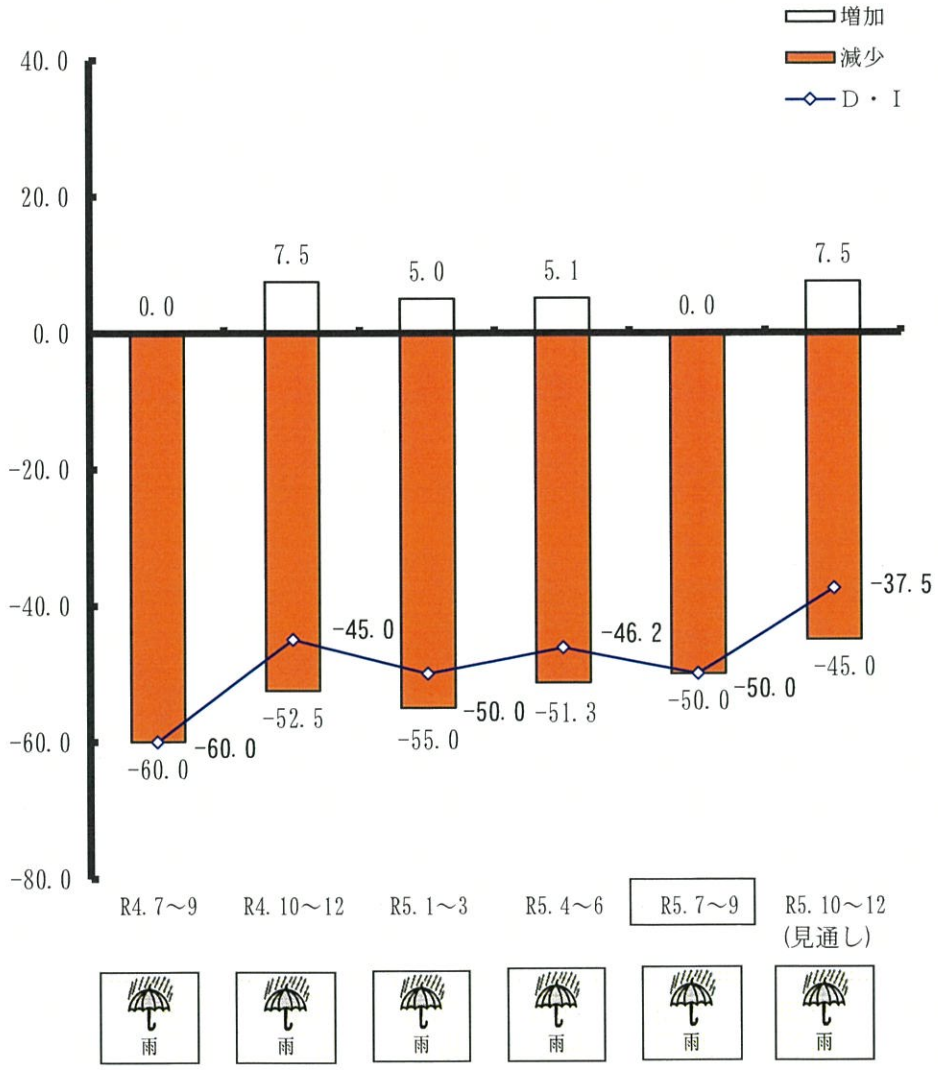


## 採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞

今期は、採算が改善した企業の割合はゼロとなり、また、採算が悪化した企業割合は１．３ポイントの小幅な減少となったため、採算Ｄ・Ｉは３．８ポイント低下し、△５０．０となり、依然として低い水準にとどまっています。

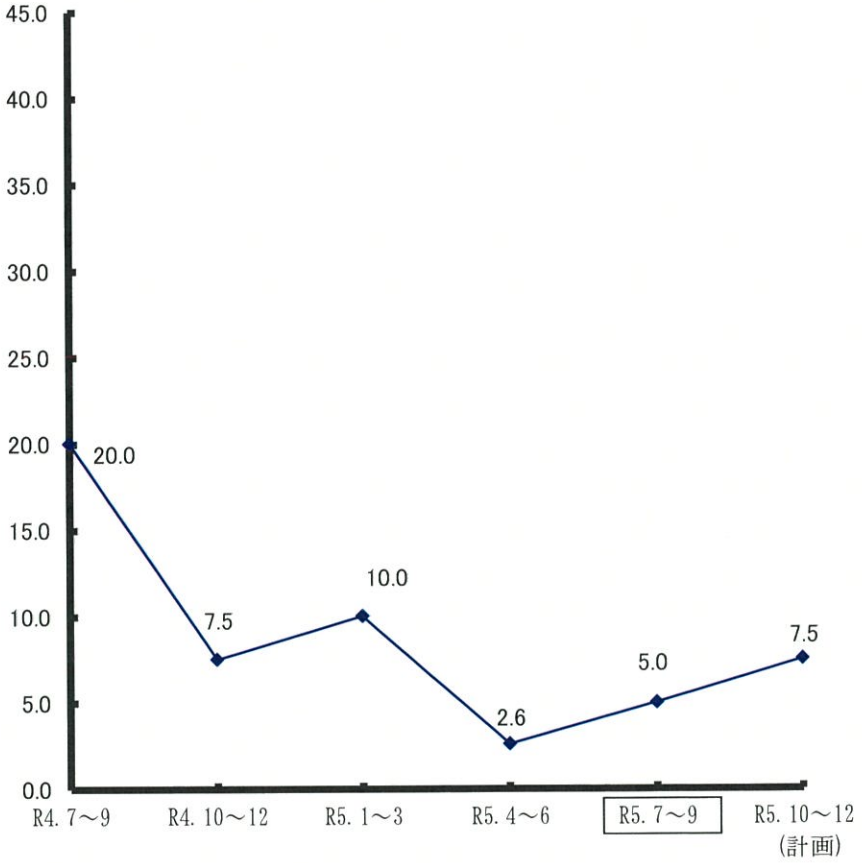
来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加し、また、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算Ｄ・Ｉは改善する見通しです。



# 設　備　投　資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は増加したものの５．０と低い水準ににとどまっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は増加し、７．５まで増加する見通しです。

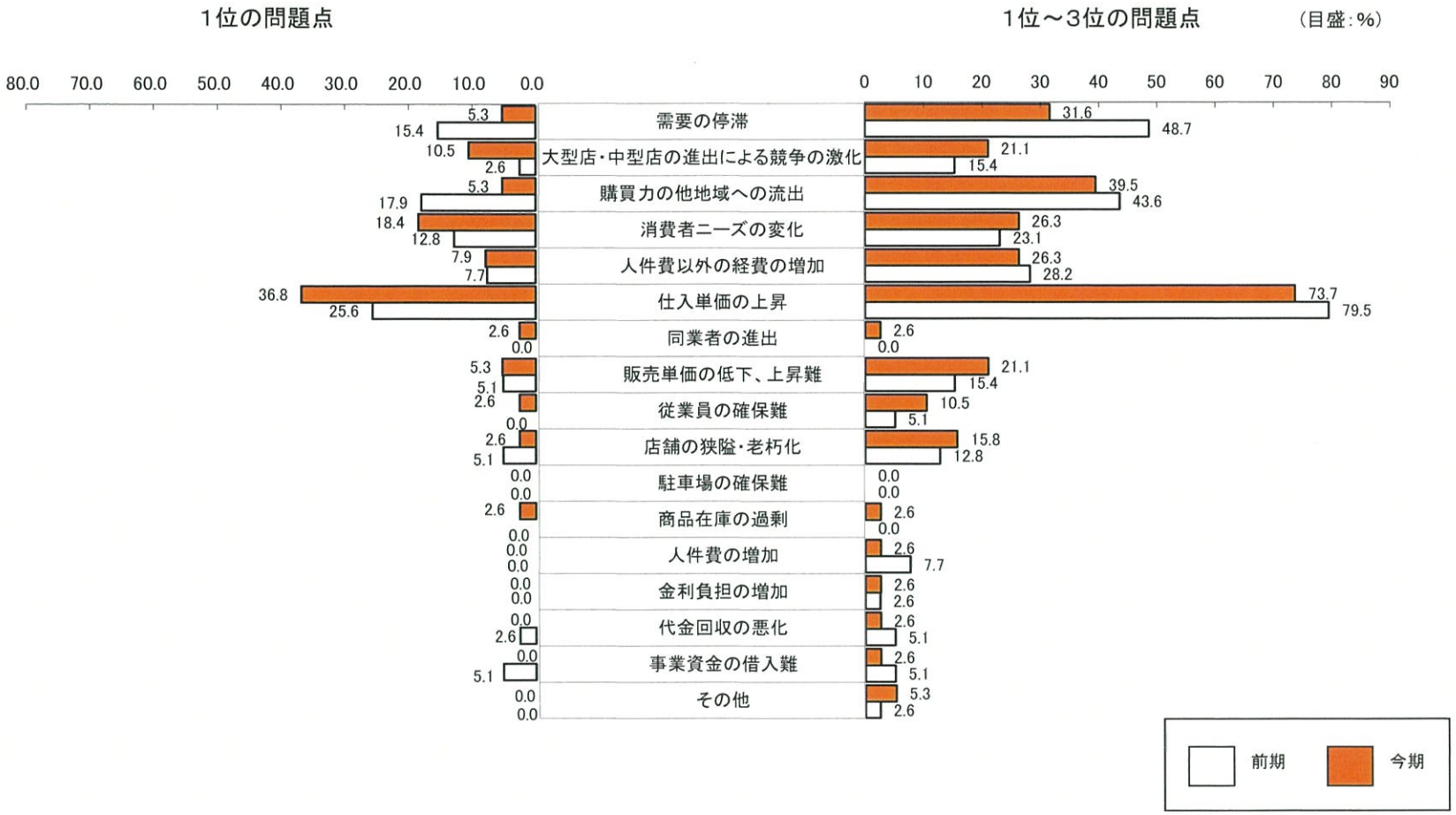



（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 経営上の問題点

## 岩手県　小売業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



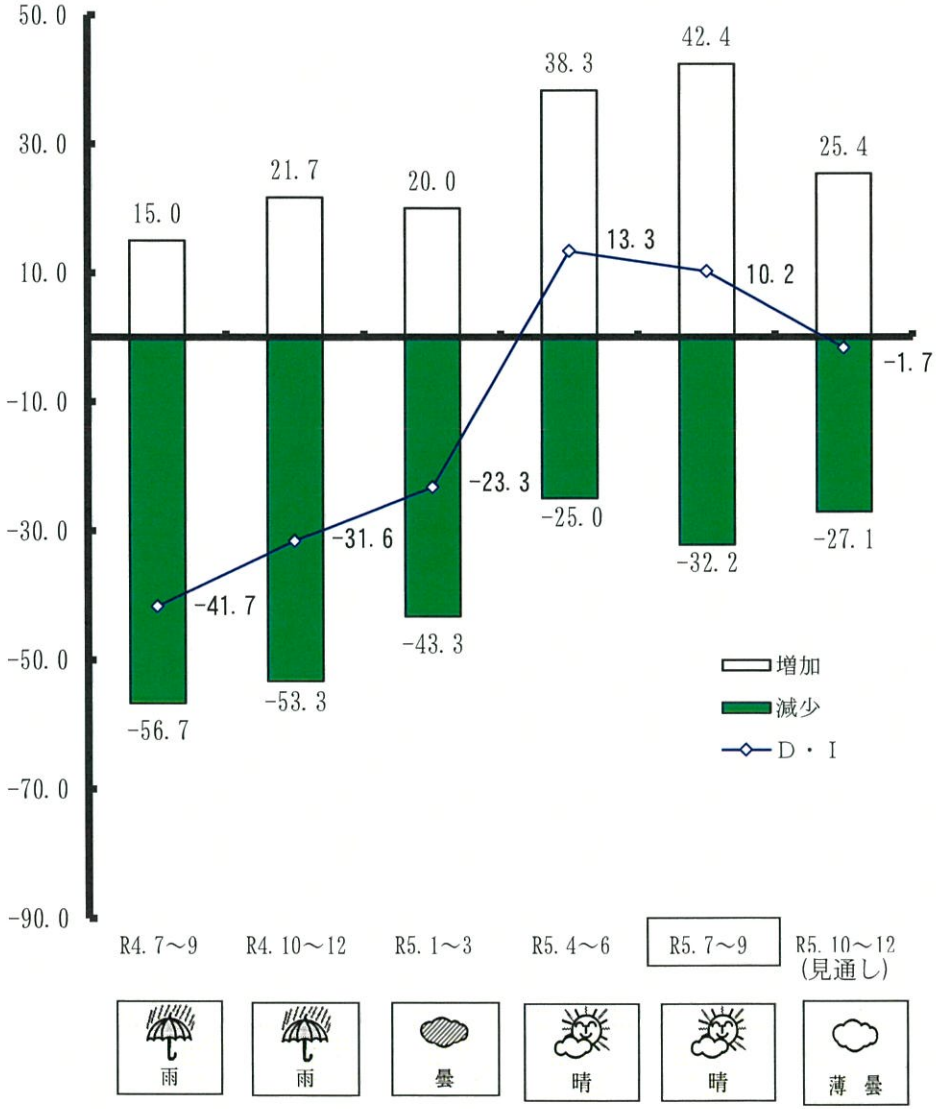
## 売　上　高

<今　　期>

<来期見通し>

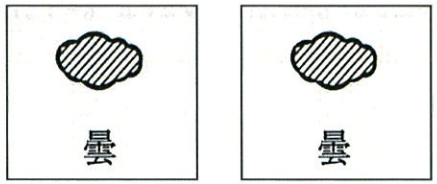
今期は、売上高増加企業の割合が４．１ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が７．２ポイント増加したため、売上高Ｄ・Ｉは３．１ポイントの低下して１０．２となりましたが、前期に引続きプラス域にとどまっています。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少に転じる一方、売上高減少を予想する企業割合も減少することから、売上高Ｄ・Ｉは悪化し、マイナス域となることが予想されています。



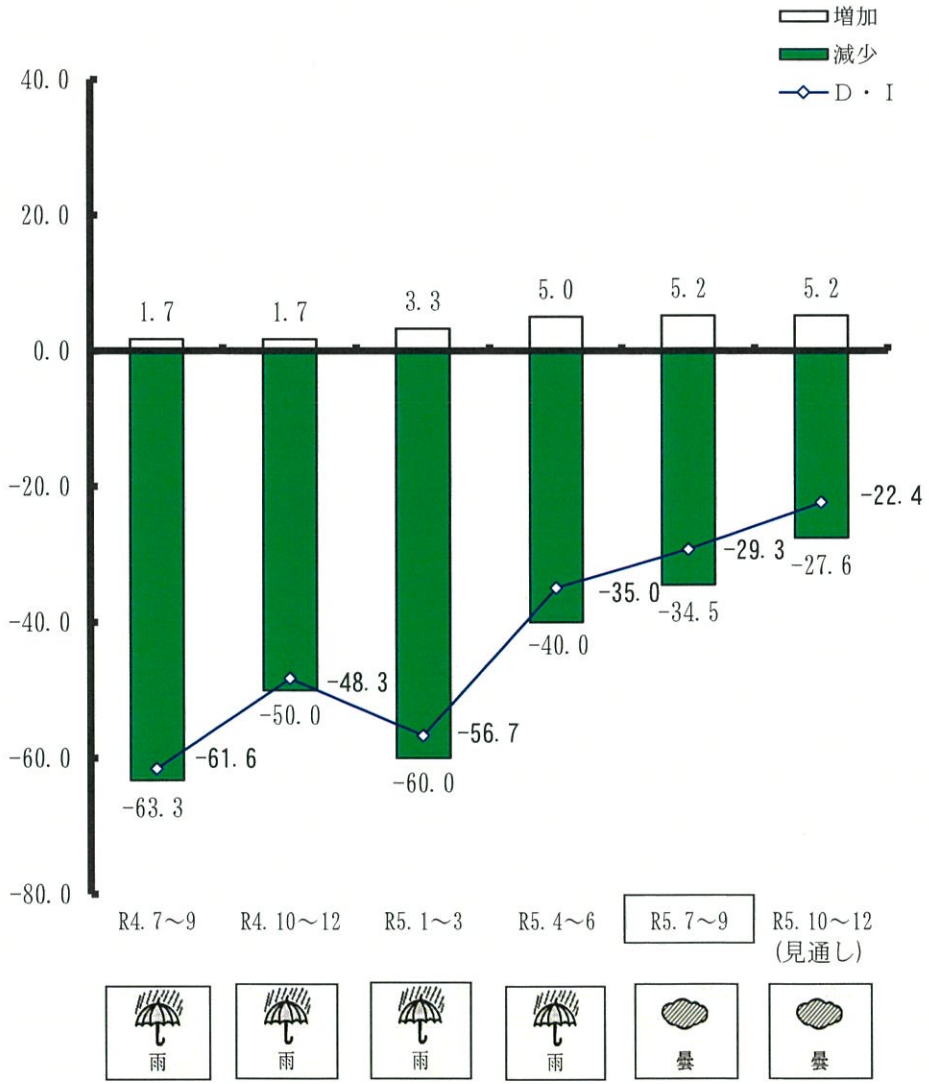
# 採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞




今期は、採算が改善した企業割合がほぼ前期と横ばいの５．２にとどまったものの、採算が悪化した企業割合が５．５ポイント減少したことにより、採算Ｄ・Ｉは２期連続して上昇し、△２９．３まで改善しています。

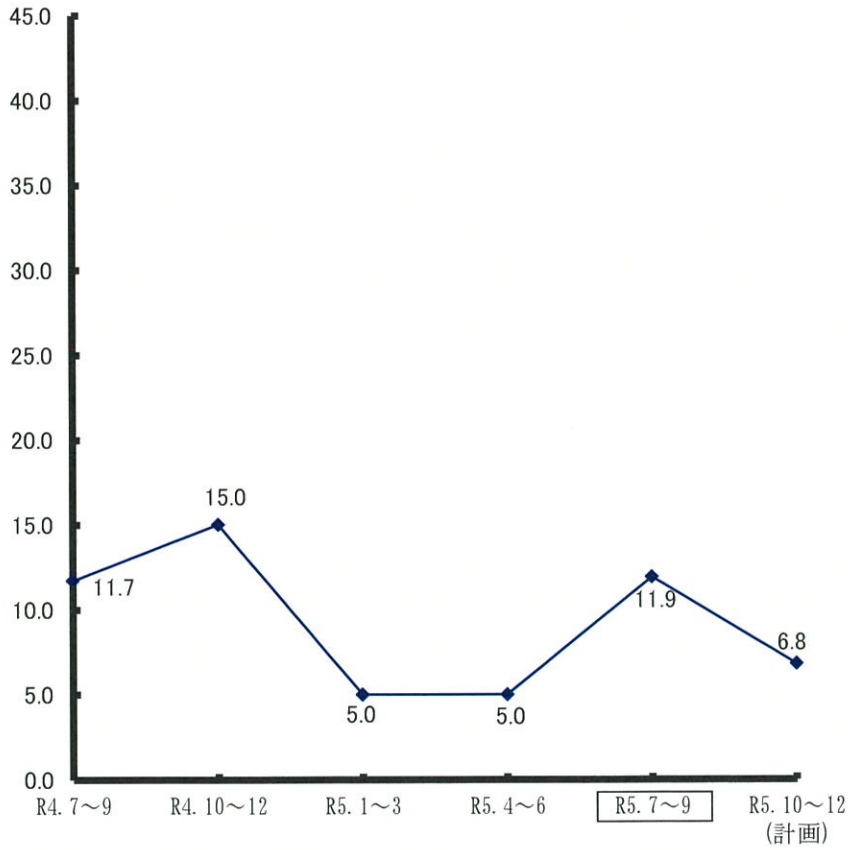
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が今期に引続き減少することから、採算Ｄ・Ｉは上昇傾向が続き、△２２．４まで改善する見通しです。



# 設　備　投　資

今期設備投資を実施した企業数の割合は上昇に転じ、１１．９まで増加しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じ、６．８程度にとどまる見通しです。

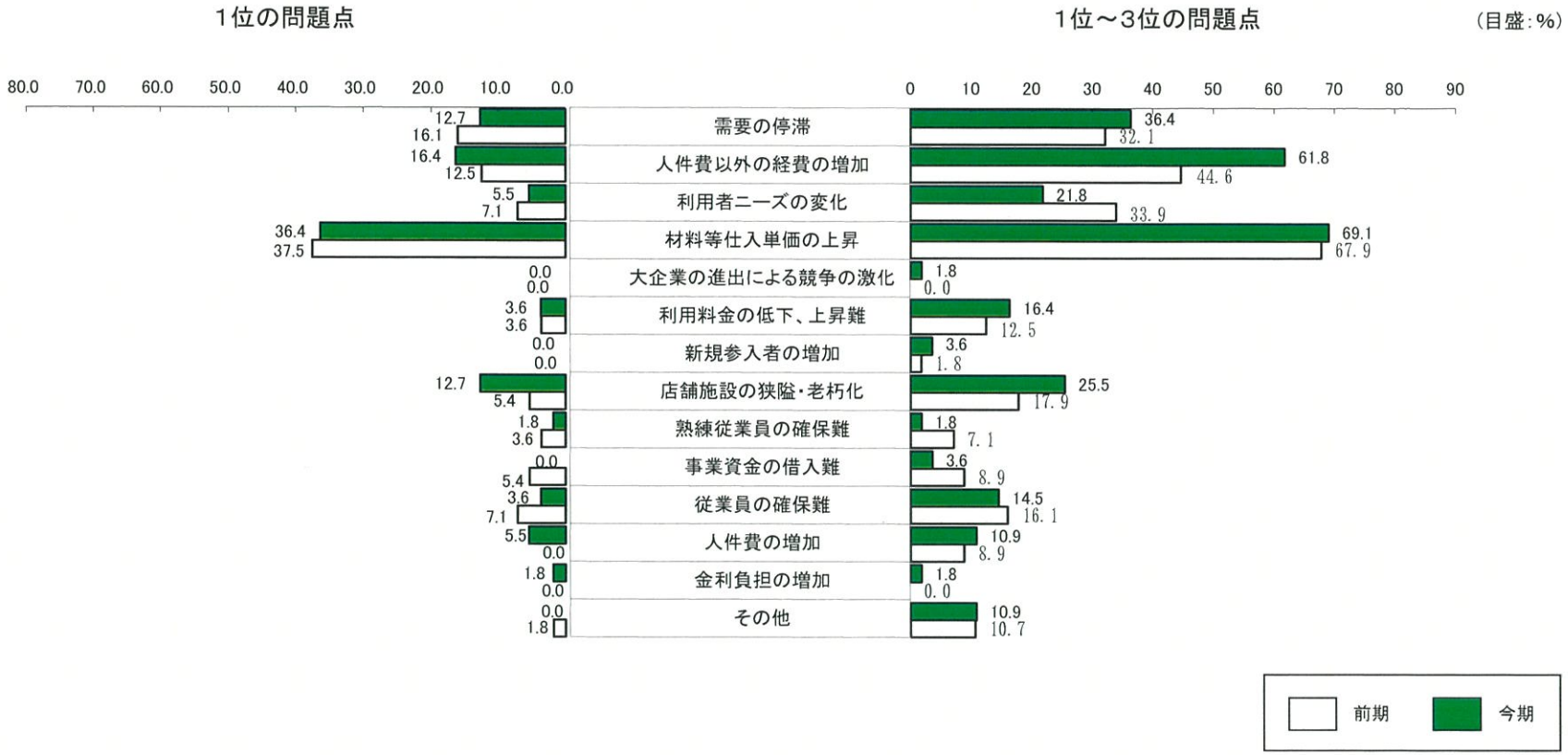



（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 経営上の問題点

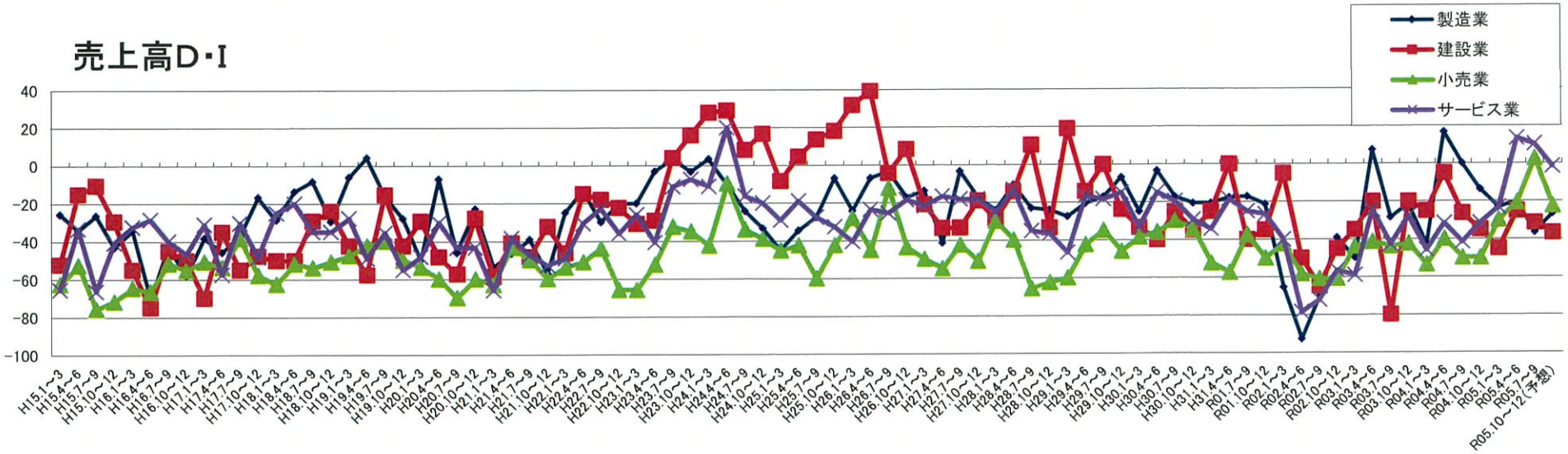
## 岩手県　サービス業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）

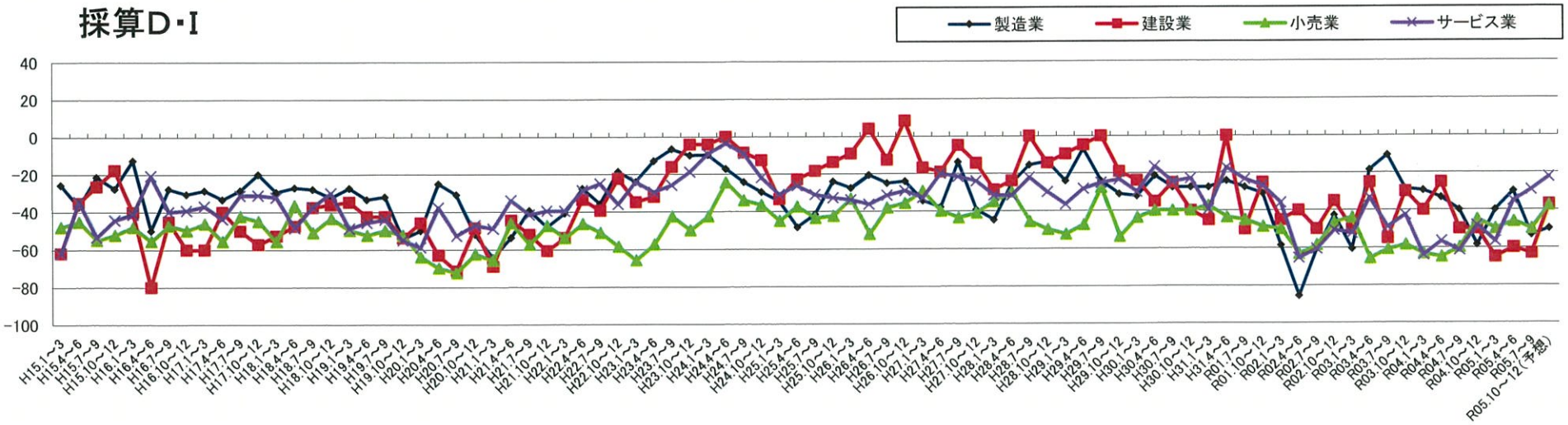


# 全産業の過去データの推移（平成15年1月以降）

## 売上高D･I




## 採算D･I



# 集　計　資　料

# 調　査　要　項

1. 調　査　対　象　　（1）対象地区　　県内１０商工会地区（商工会名）　遠野、陸前高田、雫石、岩手町、紫波町、西和賀、田野畑村、普代、軽米町、九戸村

（2）対象企業数　150　企業

（3）回答企業数　148　企業

2. 調査対象期間　　令和５年７月～９月を対象とし、調査時点は令和５年９月１日としました。

3. 調　査　方　法　　（1）商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。

（2）調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

| 業種＼項目 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率（％） |
|---|---|---|---|
| 製造業（地域産業） | 30（20.0） | 30（20.3） | 100.0 |
| 建設業 | 20（13.3） | 19（12.8） | 95.0 |
| 小売業 | 40（26.7） | 40（27.0） | 100.0 |
| サービス業 | 60（40.0） | 59（39.9） | 98.3 |
| | 150（100.0） | 148（100.0） | 98.7 |

（注）カッコ内の数字は、構成比（％）を表す。

5. そ　の　他　　本報告書中のＤ・Ｉとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。